



茂谷山

(鹿角市十和田蒲田石)

県内 北から南
秋の夕

秋澄むや里富士いよよ端整に

黒沢 みえ

藻場造成へ肥料投入

男鹿市南磯地区 魚介類の資源増狙う

魚の産卵場所であり、貝のろつと、男鹿市船川港双六な餌にもなる藻場を沿岸につくこと通称「南磯」地区で4日、

肥料の海中投入試験が始まった。「男鹿の海森づくり推進協議会」(大森昭義会長)が、漁業振興のため魚介類を増やすと実施。29日には同地区でコンブ養殖も始める。

推進協は、同地区でコンブ養殖も始める。肥料の海中投入試験が始まった。

「男鹿の海森づくり推進協議会」(大森昭義会長)が、漁業振興のため魚介類を増やすと実施。29日には同地区でコンブ養殖も始める。

肥料の海中投入試験が始まった。「男鹿の海森づくり推進協議会」(大森昭義会長)が、漁業振興のため魚介類を増やすと実施。29日には同地区でコンブ養殖も始める。

肥料の海中投入試験が始まった。「男鹿の海森づくり推進協議会」(大森昭義会長)が、漁業振興のため魚介類を増やすと実施。29日には同地区でコンブ養殖も始める。

肥料の海中投入試験が始まった。「男鹿の海森づくり推進協議会」(大森昭義会長)が、漁業振興のため魚介類を増やすと実施。29日には同地区でコンブ養殖も始める。

肥料の海中投入試験が始まった。「男鹿の海森づくり推進協議会」(大森昭義会長)が、漁業振興のため魚介類を増やすと実施。29日には同地区でコンブ養殖も始める。

肥料の海中投入試験が始まった。「男鹿の海森づくり推進協議会」(大森昭義会長)が、漁業振興のため魚介類を増やすと実施。29日には同地区でコンブ養殖も始める。

肥料の海中投入試験が始まった。「男鹿の海森づくり推進協議会」(大森昭義会長)が、漁業振興のため魚介類を増やすと実施。29日には同地区でコンブ養殖も始める。

藻場造成のため、肥料を海中に投入する地元漁師や男鹿海洋高の生徒たち。男鹿市船川港双六



男鹿森林組合、男鹿海洋高校、地元の建設会社など10団体で設立。試験は県のモデル事業に採択され、事業費998万円。将来は、コンブの加工組織も発足させる考え。

試験のきっかけは、市と同森林組合が一昨年から「ハタハタを育むエコの森づくり」の名で始めた山林への植樹。各地で藻場造成とコンブ養殖を進めるNPO「海の森づくり推進協会」(事務局・秋田市)の松田恵明代表理事(鹿児島大名普教授)が植樹を知り、市にNPOの取り組みを紹介した。推進協には同NPOも加わった。

投入したのは、硫酸鉄が主成分の粒子状の肥料。同NPOが無償で6ト提供した。双六のほか、増川、小浜、台島の4カ所と八峰町にも1トずつ入れる。松田代表理事によると、九州や北陸などの10県以上で効果が出たという。

コンブは、北海道産のマコンブの種糸で養殖。半年で出荷できる促成種だという。同推進協の一員で、元県水産振興センター所長の赤間健太郎さん(68)は「県ハタハタ資源対策協議会会長は「センターの試験でも男鹿で育つことは実証済み。流通まで発展させたい」と話す。

男鹿沿岸では約20年前から、海藻が生えない「磯焼け」が目立つ。肥料投入に参加した双六漁民会の篠田三男会長(71)は「磯焼けでブリコが産み付けられる藻が減り、この辺では安い雄ハタハタしか捕れない。昔の海に戻したい」と話した。

(森元季人)